

教科			科目	単位数	使用教科書							
家庭			家庭基礎	2	開隆堂出版（家基009-901）「家庭基礎―明日の生活を築く―」							
学期	月	時数	単元名（時数）	項目名（時数）	時数	教科書ページ	学習指導要領	内容・留意点				
1 (24)	4	6	ガイダンス・青年期(3)	1 人の一生と青年期	1	見返し～8、10～11	A(1)(2)	●「家庭基礎」を学習するにあたって、学習の意義や内容・方法・評価について理解する。 ●人の一生を生涯発達視点で捉え、各ライフステージの特徴などと関連を図ることができるようにする。 ●生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をし、責任をもって行動することが重要であることを理解する。				
				2 自分らしく生きる	1	12～15						
				3 将来を考えながらこれから生きる	1	16～21						
		6	家族・家庭(4)	1 自分が拓く人生	1	22～23	A(2)(5)	●家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深める。指導の際は、家族・家庭生活に關係する法規についてもふれる。 ●様々な生活課題に対応して適切な自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察する。 ●生涯にわたって家族・家庭生活を支える福祉の基本的な理念に重点を置く。				
				2 個人・家族と地域・社会	1	24～29						
				3 家族と法律	1	30～33						
	4 共生社会を生きる			1	34～43							
	5	6	保育(8)	1 子どもの世界	2	46～47	A(3)	●乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につける。 ●子どもを生み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。 ●学校や地域の実態に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、乳幼児とのふれ合いや交流などの実践的な活動を取り入れる。 ●生涯にわたって家族・家庭生活を支える福祉の基本的な理念に重点を置く。				
				2 あたらしい生命の誕生		48～51						
				3 子どもの発達	2	52～59						
				4 子どもとかかわる	3	60～67						
				5 社会の中で子育て	1	68～73						
	6	8	高齢者(8)	1 様々な高齢期	4	76～79	A(4)	●高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身につける。 ●高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 ●学校や地域の実態に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、高齢者とのふれ合いや交流などの実践的な活動を取り入れる。 ●生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本的な理念に重点を置く。認知症などにもふれる。 ●生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ●家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察する。				
				2 高齢期の生活を支える	4	80～85						
	7	4	ホームプロジェクト(1)		1	224～229	D	●ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ●自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。 ●各内容の学習の発展として実践的な活動を家庭や地域などで行う。				
			ホームプロジェクト(1)		1	224～229						
2 (28)	9	8	食生活(20)	ホームプロジェクト(1)	1	224～229	B(1)	●ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につける。 ●おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身につける。 ●食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫する。 ●栄養、食品、調理及び食品衛生との関連を図って扱うようにする。また、調理実習については食物アレルギーにも配慮する。				
				1 食の変遷とおいしさの追求	2	88～91						
				2 食べ物は健康の決め手	5	92～103						
				3 調理にトライ！	10	104～119						
				4 日本と世界の食文化	1	120～125						
				5 食生活をプロデュース	1	126～137						
				6 持続可能な食生活	1	138～141						
				11	8	1 被服の機能と着装			2	144～151	B(2)	●ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようにする。 ●被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身につける。 ●被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫する。
						2 快適な被服の科学			2	152～155		
						3 被服の入手と管理			2	156～163		
	4 持続可能な衣生活	2	164～167									
	12	4	衣生活(8)	1 様々な住まいと暮らし方	1	170～173	B(3)	●ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身につける。 ●住居の機能性や快適性、住居と地域社会とのかかわりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫する。				
				2 健康で快適な住まい	2	174～177						
				3 住まいの防災・減災	2	178～181						
				4 持続可能な住まいとまち	1	182～185						
	3 (18)	2	8	消費生活と持続可能な社会(8)	1 生活を支える経済	2	188～193	C(1)(2)(3)	●家計の構造や生活における経済と社会とのかかわり、家計管理について理解する。 ●生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連づけて考察する。 ●消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できるようにする。 ●自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫する。 ●生活と環境とのかかわりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解する。 ●持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、ライフスタイルを工夫する。			
2 社会・世界とつながる家計					2	194～199						
3 消費社会を生きる					2	200～207						
4 持続可能な消費生活					2	208～213						
3		4	生活設計(3)		3	216～223	A(1)	●人の一生について、自己と他者、社会とのかかわりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。 ●生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫する。				